

【講座名】	講座3 「生活単元学習の指導の在り方」	
【講師】	実践報告 県立児湯るぴなす支援学校 教諭 後久真理子 氏 助言者 県立みやざき中央支援学校 コーディネーター 松田昭憲 氏	
<p>1 講座の内容</p> <p>(1) 実践報告 (25分)</p> <p>○事例「梅ジュースを作って、おふるまいをしよう。」 梅ジュースの作り方については言葉だけの説明では難しかったため、板書で視覚的に示した。梅の重さを秤で量らせ、算数の学習と結びつけた。へたとりは竹串を使って手の巧緻性を高めた。テーブルに飾った花は校庭で見つけた花を飾った。イメージキャラクターを考え、段ボールで作った児童もいた。キャラクターを着て、呼び込みを行っていた。接客の仕方も事前に学習を行った。ジュースの希釈具合を視覚的に示し、それを見ながら作っていた。お客さんも多く、接客をがんばり、充実感もあった。</p> <p>(2) 助言 (60分)</p> <p>○生活単元学習の基礎知識 (特に必要がある場合には、各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部又は一部については合わせて授業ができる。つまり生単はしなくても良いが、生単は知的障がい教育の核。般化が苦手な知的障がいの児童にとって、学力を生活に生かせる学習が必要)</p> <p>○楽しい生活単元学習 (楽しくなければ生単ではない。楽しければ、意欲を示す。成就感が次の学習への意欲につながる。頑張ればよいことがあることを教えれば、頑張れる態度を養うことができる)</p> <p>○目標と内容 (目標は生活上の目標・課題を解決するものであること、指導内容は子どもの興味関心を考慮する。その子が好きなものを探し、それを教材にする。喜ばないようなものは不適切な題材。子どもの好きなことを再構成する。再構成とは、①教科等の視点を明確化する、②活動の必然性を入れる、③意欲を引き出す仕掛けを作る)</p> <p>○生活単元学習の指導の視点</p> <p>1 見通しを持たせる。一年間計画 (児童の実態に応じて数週間～年間という見通しを持たせる。) 朝の会、帰りの会を活用 (朝の会での見通し、帰りの会での振り返り、成就感、次の見通しをもたせること)</p> <p>2 パターンの指導ー①見通し②活動③成就感④振り返り 振り返りでは感想を言葉や文章で表現させることが必要。すいかやそばなどの次の題材に入れ替えてパターンの指導をしていくことが必要。</p> <p>らせん階段的指導ーパターンの指導を繰り返すことで定着が見られるようになったら、支援を抜き、新たな課題を加えていく。</p> <p>2 受けてみての感想</p> <p>実態に応じた生活単元学習の指導について視覚に訴える板書資料を提示していただく等、分かりやすい発表であった。講座への参加が多数で、生活単元学習に対する関心の高さが伺えた。助言者の先生の生活単元学習への提案についても参加者は興味深く聞き入っていた。</p>		
講座の様子		

